

平成27年度第2回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日時

平成27年8月17日（月） 午前9時02分から午前10時47分

2 場所

青梅市役所 議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

[出席委員]

榎本晶夫委員	押切重洋委員	水村美穂子委員
菊池一夫委員	大住修司委員	長澤陽祐委員
浅見定由委員	永井寅一委員	布谷和代委員

[出席青梅市職員]

竹内青梅市長以下10名

4 議事概要

(1) 委嘱状交付

(2) 市長あいさつ

(3) 委員自己紹介

(4) 理事者および職員紹介

(5) 議題

ア 委員長の選任

榎本委員が推薦され承認された。

イ 委員長職務代理者の指名

榎本委員長から押切委員が指名され、承認された。

ウ 今後の委員会の進め方について

【行政管理課長説明】

委員会および行革プランの概要説明。意見交換。

エ 今後のスケジュール

【行政管理課長説明】

定例会スケジュールについて説明。意見交換。

(6) その他

【行政管理課長説明】

委員会で取り上げたいテーマを9月30日までに事務局に提出することとする。意見交換。

5 主な質疑・意見等

○今後の委員会の進め方・スケジュールについて

《質疑》

[Q] 「青梅市行財政改革推進プラン計画期間の流れ」を見ると平成27年度から28年度に平成26年度取組の検証、平成28年度から29年度に平成27年度取組の検証、また、平成29年度から30年度に平成28年度取組の検証とあり、30年度に新プランスタートということであるが、もっと早くやらないと時代は進んでいるのに行政は遅いような気がする。

[A] 前委員会でご提言いただいたものを基礎としてつくった行改プランは、計画期間が5年間である。目標値や取組内容の変更は毎年やっていきますが、新プランスタートを前倒しするには計画期間の5年を3年などに繰り上げなければならないので、5年で次の新プランをつくっていく予定である。

[Q] 議会で決算が終了した後に、新たにこの委員会で行革プランの中のものを取り上げてやっていくのか。

[A] 行革プランにつきましては、9月の決算の議会にも提出し議会からもご意見はいただきますし、次回12月に予定している行財政改革推進委員会の時には、このプランの中から各委員が希望される項目に絞ってご提言をいただく。

[Q] スケジュール表にある平成29年度の新推進プランというのはどのように理解すれば良いのか。

[A] 実際には平成30年度からの新しい行革プランということになるので、細かい内容等を詰めていくとなると平成29年度7月から始まる新しい委員会の中でご提言をいただき、まとめていくということで考えている。ただ、これからの2年間での各委員のご提言も次期策定プランの中に反映できるものについては反映させていただきたいと考えている。

《意見・要望》

- ・当委員会は、議会に関わること以外は全て出来ることになっているので、行革プランの項目だけに限定してやる必要はないと思う。行革プランに限らず出来るだけ幅広くご意見ご質問を出していただきたい。
- ・青梅市は年間を通して地元の食材を使っているレストランや居酒屋が多いので、青梅は食材が豊富であり魅力ある地域であるという側面があると思う。
- ・今後委員会で取り上げたいテーマを各委員が最低1つは出してもらいたい。
- ・以前当委員会では、テーマに関わるような施設の見学をしたことがありましたが、今回もそのような機会を設けていただきたい。

○その他（行革プラン等について）

《質疑》

[Q] 地方創生ということで新しいものを創造していくということになっているかと思

ますが、そういったことを行革プランに盛り込むことは考えているか。

[A] この行革プランの項目は総合長期計画の方には関係あるのですが、地域活性化のような項目は入ってこない。今計画を策定しているプランの中のそれぞれの要素を年次の改定の中では織り込んでいくということで考えている。

[Q] 行革プラン40ページの保有土地の有効活用等について、どういう土地が売却されているのか。

[A] 処分地としては、千ヶ瀬バイパスの延伸に伴い代替地として確保していた土地で不要となった部分について一般に競争入札をした。

[Q] 例えば道路の線を少し変えたというと廃道的な部分がある。その道路に民家が張り付いていないへた地の部分とかで処分することはないのか。

[A] 廃途とした土地と以前ダストボックス置き場として使用していた1、2坪位の土地を隣接している地主の方に売却したケースはある。

[Q] 総合病院について建て替えの必要はあるのか。病棟の空いている部分等を使用するなどして、やり繰りは出来ないのか。

[A] 総合病院については、西棟が昭和54年5月、東棟が昭和56年6月、南別館が昭和58年3月、南棟が平成2年、救命救急センターが平成12年3月に建てている。東棟、西棟については、40年近くが経過しており一定の耐用年数がきている。それから、おもとの配管や電気配線、ボイラー、エレベーター設備等に寿命がきている。また耐震性の問題もある。手術室も昔の設計なので今の新しい機械を入れると狭い。そういったいろいろなことを考えるとどのようなかたちで建て替えるのが良いか検討を始めたところで、まだ建て替えが決定したわけではない。

[Q] 教育センターは耐震性に問題があるということで放置されているが、耐震補強し有効利用できないのか。

[A] 教育センターは取り壊しを考えたが、教育センターは福祉センターと地下でつながっており、動力が同一であるので教育センターを取り壊すと福祉センターの機能の一部が心配な状況になってしまう。また両センターとも耐震補強をして使用を考えたが、福祉センターの中の結婚式場や厨房に相当太い柱を入れないと補強出来ないことが分かり、将来的にこのような建物を全て取り壊して複合化しどこかに建てるのが良いだろうということで公共施設の再編について現在検討を進めている。

[Q] プレミアム商品券は、プレミアム率が他の市町村だと20%というところもあったが、なぜ青梅市は15%だったのか。

[A] なるべく多くの方にご利用いただき地域振興に結び付けばということで、プレミアム率については国が示した幅の中で比較的低い方を選んだ経緯がある。

《意見・要望》

・行革プラン5ページの市民サービスの向上について、結果が全然分からない。どの程度改善されているのかを内容がある程度分かるようにして欲しい。

・指定管理者制度について、平成25年度、26年度で指定管理者を入れているが、その

結果運営方法や管理体制がどのように変わったか具体的に知りたい。

- ・行革プラン20ページの地域防災計画等の見直しの中に、消防活動上の支障の排除を図ったと記載があるが、図ったというのはどこの地域でどのようにしたのかを教えて欲しい。
- ・ケミコンの跡地については、すべて市が所有する必要はない。跡地利用計画が固まり次第民間に売却することが必要ではないか。
- ・現在の市庁舎はスペースで立派だが冷たいものしか感じない、昔の市庁舎の方が心休まった。
- ・使える施設は有効に使う、無駄な施設は持たないそれが行革だと思う。
- ・専門医のいる病院に転院できるシステムを青梅総合病院に設けることが必要。
- ・救急室に転院に関わる仕事ができる人員が常時いて欲しい。
- ・青梅総合病院に脳卒中医を雇い、その人が中心になりユニットを立ち上げるべき。
- ・西多摩地域の脳外科のある病院で連携をとり、脳外科の夜間の対応を輪番で行うような体制が必要と考える。
- ・立川の災害医療センターや他の病院と提携するということが大変重要な課題となる。
- ・プレミアム商品券は初め1人3万円までということだったが、売れ残った後は商工会議所で制限なしに販売していたが、これではお金持ち優遇の施策になってしまう。
- ・プレミアム商品券があったことすら知らない人がいたので、もうちょっと一般市民に分かりやすい広報の仕方があったのかなと思う。